

第3章 地域の資源を活かした活力と賑わいのあるまち

(産業・観光・文化)



3-1 商工業振興

12年後の目指す姿

誰でもアイデア一つで創業や新規事業を生み出す環境が整っており、市内のあらゆる場所でイノベーションが起こるまちを目指します。また、働きたい人がいつでも好きなときに働くことができ、事業者が必要な人材を常に雇用することができる労働市場の確立を目指します。

加えて、市内事業者が積極的に設備投資を行うとともに、IoT等先端技術を活用し、効率的に事業を行うことができるまちを目指します。さらに、多様化する消費者ニーズに的確に対応した魅力ある店舗、商店会が増え、賑わいがあふれるまちを目指します。

4年間の取組

地域創業及び事業承継の促進に加えて、先端技術に関する企業を積極的に誘致し、外部から市内への人的、物的投資を呼び込みます。

また、就業者の確保のため、国、県、関係機関と連携を図りながら、地域職業相談室での紹介を中心とした就業支援と就職セミナー等を開催し、職業能力の向上を推進します。加えて、市内及び近隣の高校と連携して、新卒者に対する市内企業の紹介に努めます。

さらに、市内企業の競争力向上のために、設備投資の促進や販路拡大のための取組を支援します。

◇成果指標

指標名	現状値	前期基本計画の目標値(2023年度)
企業誘致助成金新規利用企業数	3社	4社／年
起業塾(入門編)受講者の創業者数	7名	8名／年
地域職業相談室における市内相談者の就職率	11.8%	15.0%

現状と課題

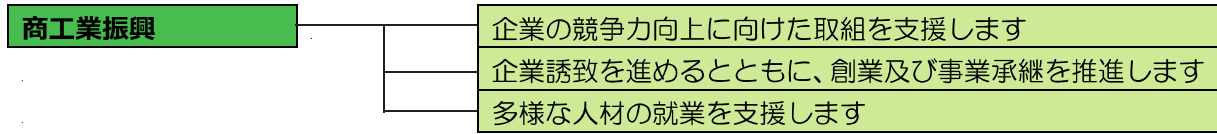
現状

- ・設備の老朽化等に伴い、中小企業では相対的に生産性が低下しています。
- ・創業者に必要な「知識」を得る場や、実際に事業を実施する拠点の整備が不十分です。
- ・市内事業者は、新卒の学生等が採用できず、人材不足が深刻化しています。

課題

- ・生産年齢人口の減少等による税収減が懸念される中でも、安定した持続的な行財政運営を行うためには、地域経済の活性化が不可欠です。
- ・中小企業に設備投資を促すために、資金調達が円滑に進むよう支援する必要があります。
- ・創業者が、事業が軌道に乗るまで経営に関する知識を身につける場所が必要です。
- ・新卒等の若年層の採用が困難であることから、高齢者、女性、外国人等多様な人材を活用する必要があります。

施策の体系



施策の内容

企業の競争力向上に向けた取組を支援します

市内企業の設備投資及び事業拡大を図るために資金調達を支援します。また、市内事業者相互の連携を図るために、地域経済団体への支援を行います。

市内企業の認知度を高めるためのイベント等を実施します。また、商店会活性化を目指す集客イベントや施設整備、空き店舗を活用した出店促進等を支援します。

●**主な事業**：既存企業の事業拡大・施設拡充支援、商店会の取組支援、空き店舗対策

企業誘致を進めるとともに、創業及び事業承継を推進します

企業誘致助成金の活用等を通じ、多様な業種の企業を誘致します。また、その受け皿となる用地が不足しているため、工業団地や佐倉インターチェンジ周辺等における産業用地確保の検討を行います。

さらに、起業塾や低利融資制度等により、創業希望者を知識面、資金面から支援するとともに、佐倉市スマートオフィスプレイスの運営等を通じ、産業界や金融機関、教育機関等との連携による創業、技術開発、先端事業の創出を支援します。

●**主な事業**：企業誘致の推進、官民連携による起業・創業支援、佐倉市スマートオフィスプレイスの運営

多様な人材の就業を支援します

求職者に雇用・就業に関する情報提供や知識習得機会の提供などを行い、就業促進や職業能力向上、雇用の安定化を図ります。また、企業の人手不足解消を図るため、女性・高齢者・障害者等の就労促進及び定着支援を行います。

●**主な事業**：市内企業の市内雇用拡大支援、職業相談等による就業支援

◇市民・地域への期待

- ・市内事業者・地域経済団体・取組の核となる人材等と連携・協力して産業振興に取り組むこと
- ・市内事業者は、相互に連携することで、市内における需要喚起に努めること
- ・地域経済団体は、主体的に市内事業者の現状把握と経営支援を行うこと
- ・市内の先輩創業者は、後進の創業希望者に対して助言等を行うこと
- ・求職者は、市が開催する就職セミナーへの参加等を通じて、積極的に情報収集すること

◇関連する個別計画

計画名	計画期間	主担当課
佐倉市産業振興ビジョン	2020年度～2031年度	産業振興課



3-2 農業振興

12年後の目指す姿

農林水産業者の担い手が確保され、マーケティング力の向上により、収益増加が図られる環境が整備されている社会を目指します。また、チャレンジする人が活躍できる環境が整備されている社会を目指します。

農地の基盤整備により、スマート農業などが促進され、生産能力が十分に引き出されている農村社会を目指します。また、美しく伝統のある集落が未来にわたって継承される農村社会を目指します。

4年間の取組

農業を取り巻く社会状況の変化や農業者の個々の経営状況を捉えて、マーケティング力を高めたチャレンジする人が活躍できる環境を整備します。また、「美しく活力のある農村社会」を実現するため、農業と地域の活性化を一体的に進めます。

◇成果指標

指標名	現状値	前期基本計画の目標値(2023年度)
認定農業者件数	124件	140件
多面的機能活動団体数	29団体(累計)	30団体(累計)

現状と課題

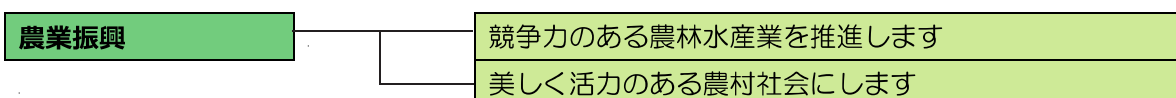
現状

- ・農業生産額が減少していく中、農業就業者が高齢化し、減少するとともに、農村集落を構成する人口も減少しており、農村集落での農地を含む地域資源の維持や継承が厳しい状況となっています。
- ・共同活動として行われた農地や農業施設等の地域資源の維持継続に支障を及ぼすことが懸念されます。
- ・有害鳥獣による農作物等への被害が増える傾向にあり、農作物生産の意欲低下となっています。

課題

- ・農業の担い手の育成及び確保と、多様な経営に対応する支援が必要となっています。
- ・農地の基盤整備、農業用水等の保全活動、地域コミュニティの構築を速やかに実施していく必要があります。
- ・地域での連携した取組や生産者個々での有害鳥獣対策を実施していく必要があります。

施策の体系



施策の内容

競争力のある農林水産業を推進します

担い手の農業経営力を強化するため、主体的に生産・販売を行う経営マインドを持った担い手を育成します。また、地域の理解を得つつ、新規就農者や法人といった新たな担い手の確保に努めます。

地域資源の創出に向け、マーケティングにより打ち出されたコンセプトを捉えて、多様な主体とタイアップし、価値を高める新商品の開発や需要開拓に対して支援を行います。

農地の生産性の向上に向け、作業効率を高めるため、地域内に分散している農地を整理し、担い手ごとに集積します。また、AI・ロボットといったスマート農業などが展開できる農地に向けた基盤整備に対して支援を行うとともに、農地の改良や用排水施設の維持管理などの基盤整備に対しても支援を行います。

- 主な事業**：新規就農者の支援、担い手育成、農産物の高付加価値化・新商品の開発支援、農産物の販売促進に向けた調査研究、森林環境譲与税基金の活用検討

美しく活力のある農村社会にします

農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため、地域の農地・農業用施設などの保安全管理活動や生活環境の改善に対し支援を行います。また、都市部住民と農業を営む住民の地域間交流の機会を創出します。

農業環境の保全により持続性のある農業を推進するため、環境保全型農業や農業用廃プラスチックの適正処理に取り組むなど、環境に配慮する農業者への支援を行います。また、鳥獣や病害虫から農作物を守るための対策へ支援を行います。

- 主な事業**：農地・農業用施設の保安全管理活動支援、環境に配慮する農業者支援、佐倉草ぶえの丘の管理運営

◇市民・地域への期待

- ・農業者は、市・関係機関と連携して、農業施策に取り組むこと
- ・農業の重要性について理解を深め、地産地消や食育に取り組むこと

◇関連する個別計画

計画名	計画期間	主担当課
佐倉市農業振興地域整備計画	—	農政課
佐倉市森林整備計画	2018年度～2027年度	農政課

3-3 観光振興

12年後の目指す姿

歴史・自然など、佐倉ならではの地域資源を複合的に活用し、市民や近隣住民をはじめ多くの人々が、気軽に、繰り返し訪れたいくなる通年型の観光地を目指します。

4年間の取組

地域特有の歴史、自然等の観光資源を活かした新たな観光スタイルを創り、観光客の増加や消費喚起に努めます。また、観光客のニーズ研究や関係機関・市民等との連携強化を進め、魅力的な観光商品の造成や効果的な営業活動、情報発信を行います。

◇成果指標

指標名	現状値	前期基本計画の目標値(2023年度)
年間観光入込客数（イベントを除く）	147.0万人	154.5万人
観光協会の情報発信への「いいね」数	56,752いいね	57,939いいね

現状と課題

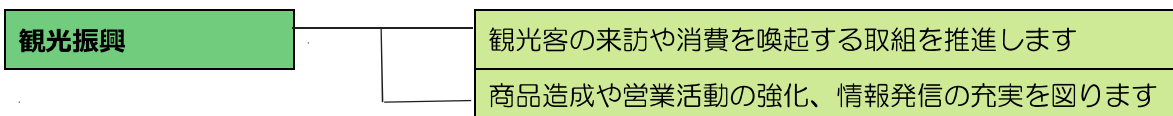
現状

- ・佐倉市は、近隣市と併せ人口 150 万人超の成熟したマーケットを有し、都心や成田空港とのアクセスも容易なことから、外国人も含め、気軽に訪れることのできる観光地として恵まれた立地条件を有しています。
- ・印旛沼に代表される自然環境、城下町佐倉に代表される歴史遺産など豊富な観光資源を有しています。

課題

- ・平成 28 年 4 月に、城下町佐倉の町並み等が日本遺産「北総四都市江戸紀行～江戸を感じる北総の町並み～」に認定されたものの、町並みの変容や古民家の喪失が進行しています。また、観光客の滞在時間の増加や回遊性の向上による消費喚起の取組が求められています。
- ・佐倉ふるさと広場は、イベント期間中は多くの観光客で賑わいますが、イベントが無い時期は来場者が少なく、年間を通じ観光客を呼び込むことが求められています。
- ・市外での佐倉市の認知度は低く、魅力的な観光商品の造成や営業活動の強化、情報発信の充実が求められています。

施策の体系



施策の内容

観光客の来訪や消費を喚起する取組を推進します

佐倉の歴史観光の拠点である城下町地区について、国内外から人が訪れるよう、新図書館の整備に合わせ、景観整備や古民家活用を進め、滞留時間の増加や回遊性の向上を図ります。

印旛沼周辺地域がサイクル・フラワー・グリーンツーリズムなどニューツーリズムの拠点となるよう、新たな観光スタイルの提示や周辺施設の連携、駐車場等の整備を進めます。また、年間を通じて観光客が訪れるよう、閑散期における集客対策を行います。

既存のイベントの内容を充実するとともに、新たなイベントの開催やアニメの聖地巡礼など、市内での消費や回遊につながる仕組みを構築します。

●**主な事業**：観光イベント実施、各種観光事業支援

商品造成や営業活動の強化、情報発信の充実を図ります

国内外の観光客増加に向け、ターゲットを明確化します。また、関係機関等との連携強化を図り、ターゲットに合ったモデルコースや体験プログラム等の商品造成を行うとともに、ダイレクトメールや直接訪問等の営業活動の強化、ICTを含めた様々なメディアを活用した情報発信等を行います。

●**主な事業**：体験プログラム等の商品造成、多様なメディアを活用した観光情報発信

◇市民・地域への期待

- ・市内観光施設の利用や、イベントへの参加を通して佐倉市の観光資源の魅力を知ること
- ・SNS等やクチコミにより市外の方にも佐倉市の情報を伝えること
- ・地域住民や地元商店会と連携を図り、観光客をおもてなしの心で受け入れる体制を整えること

◇関連する個別計画

計画名	計画期間	主担当課
佐倉市産業振興ビジョン	2020年度～2031年度	産業振興課
佐倉市観光ランドデザイン	2020年度～2031年度	産業振興課

写真：佐倉城址公園



3-4 文化・芸術振興

12年後の目指す姿

価値ある歴史・文化資産や史料が保護保存され、市民一人ひとりが芸術文化を創造し、享受することができる環境を充実させることにより、芸術文化の多様性を理解し、お互いを尊重し、協力しあいながら、心豊かな生活を営むことができる地域社会の実現を目指します。

4年間の取組

歴史のまち佐倉には、原始・古代からの多数の文化財があり、市民とともに、これからも守り、生かし、伝えていきます。また、芸術文化活動を担う市民の自主性、創造性を尊重し、活動の場や発表の機会を提供するとともに、市民が気軽に芸術文化とふれあえる環境の充実に努めます。

◇成果指標

指標名	現状値	前期基本計画の 目標値(2023年度)
指定・登録文化財等の数	119件	123件
年間来館者数 (市民音楽ホール・市立美術館)	170,742人	180,000人

※市民音楽ホールについては2017年度、2018年度が改修工事中であったため、2016年度の実績。

現状と課題

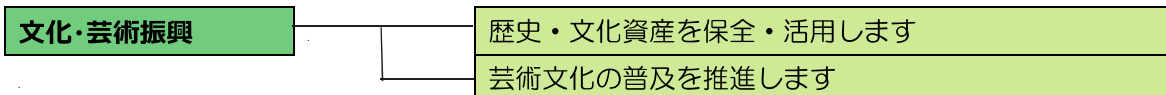
現状

- ・貴重な文化財を守り、生かし、伝えるために、修繕等への助成、調査・記録等を行いつつ、文化財の大切さについての普及啓発に努め、次代に伝える取組を行っています。
- ・市民音楽ホールや美術館等の文化施設においては、各種音楽公演や美術作品の企画展示、学校と連携した事業等を展開することにより、幅広い年齢層に対する芸術文化を鑑賞する場、また自らの活動を発表する場を提供しています。

課題

- ・文化の創造・担い手は市民ですが、個人や地域でその文化や文化財を担っていくことが、人的・組織的に、また、資金的に難しくなっています。
- ・芸術文化を愛し、楽しみ、創造する市民を支援して、市民の生活にゆとりや潤いをもたらす、心の豊かさを実感できるような環境整備に継続的に取り組んでいく必要があります。

施策の体系



施策の内容

歴史・文化資産を保全・活用します

市民の財産でもある貴重な文化財を次代へ継承するため、適切な管理を行うとともに、保存団体等への支援を行います。また、所有者の意向を尊重しつつ、価値ある歴史的建造物などの文化財の指定や登録に努めます。その他に佐倉の歴史に関する資料を刊行するなど、地域の歴史を普及させるための取組を市民と協力して実施します。

●**主な事業**：歴史的建造物等の文化財保存整備、市史資料普及

芸術文化の普及を推進します

市民音楽ホールでは、自主文化事業等において良質な音楽を鑑賞する機会を提供していくほか、音楽に関心を持っていただくきっかけづくり、市民の音楽活動への支援に努めます。

美術館では、佐倉市の地域性を活かした展覧会や市民参加型の事業を実施するとともに、事業に参画するボランティア等の育成や収蔵資料の充実に努めます。

市民の芸術文化に対する理解や関心を深めるため、情報誌『風媒花』を発行するとともに、ホームページ、広報紙、CATV等を有効に活用して情報発信を強化します。

●**主な事業**：市民音楽ホール及び美術館の管理運営・事業実施、芸術文化情報誌発行

◇市民・地域への期待

- ・講演会や見学会に参加し、文化財に対する理解を深めること
- ・芸術文化を楽しむライフスタイルを大切にすること

◇関連する個別計画

計画名	計画期間	主担当課
佐倉教育ビジョン	2020年度～2031年度(予定)	文化課

写真：旧堀田邸



